



先月から始まった「ゆたんぼ」の貸し出し。特に東南アジアからの実習生に好評です。

あじけん通信

2010 December
Vol.36

株式会社ティビィシィ国際外語学院
企画・編集 澁谷 健司

今月号から、あじけん通信の場をお借りして、当研修センターの日本語講師陣を紹介させて頂くことになりました。この新企画を通して、皆様と当センターの日本語講師の関係が少しでも身近なものになればと考えております。

また、今回から、あじけんでの日本語講習期間に、その頑張りやユニークさが印象的で、私どもスタッフの目に留まった実習生をご紹介する新企画、「あじけん・今月の実習生！」もお届けいたします。

あじけん日本語講師ファイル Vol. 1: 澁谷 健司



初めまして。あじけん日本語講師の澁谷です。あじけんで日本語指導に加え、『あじけん通信』の企画・編集、監理団体様主催による講習会（法的保護講習会等）の英語通訳も担当しています。自分自身が外国語を長く学んできた経験を生かし、『学習者の目線に立った日本語指導！』をモットーに、実習生の皆さんの日本語力の向上に全力で取り組んでいます。

趣味は草野球とアウトドアキャンピングです。基本的に体を動かすことが好きなのですが、どちらも冬場には出来ない趣味の為、今の時期はもっぱら家でじっとして、皮下脂肪を蓄えるのが趣味と化します・・・(笑)。

あじけんの講師・スタッフ一同、技能実習生の皆さんの日本語会話力の向上に誠心誠意取り組んでおりますので、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

あじけん・今月の実習生

今月の実習生はフィリピン人実習生のトリスタンさん（左）とダレンさん（右）です。2人が手にしているのは、あじけんが毎年11月から3月まで、希望者に貸し出している「湯たんぼ」です。

常夏の国フィリピンから来日した2人にとって、初めは物珍しさから使ってみたものの次第にその魅力にとりつかれ、気が付くと入寮以来ほぼ毎晩使っていたそうです。配属日の朝、名残惜しそうに湯たんぼの返却に訪れた2人の表情がとても印象的でした。

ゆたんぼは あたたかくて、べんりですからとても好きでした。また、しげんのせつやくになる、いいかんがえだとおもいます。



わたしは ゆたんぼがだいすきでした。にほんのよるは、とてもさむいですが、ゆたんぼがあったから、ねるとき、とてもあたたかかったです。

TIFLA流日本語授業

～会話テスト・評価基準続編～

今月の TIFLA 流日本語授業は、10月号でお届けした「会話テスト・評価基準」の続編です。今回は、D 及び E 基準について具体的な解説をさせていただきます。特に初日会話テストにおいて、このレベルの技能実習生が占める割合は非常に高く、本校ではこのレベルの実習生の会話力の向上が、1つの大きなポイントとなっています。

【会話テスト評定基準解説】

(評定基準は日本語講習実施報告書の総合評価ページから抜粋)

D 基準：自然な日本語を聞いて、基本的な質問であれば何とか応答出来る。発話の流暢さには欠ける。

【解説】

このレベルの実習生は、自分自身についてや日常生活にまつわる基本的な質問内容であれば、単文の普通体（一般の日本人が親しい間柄で用いたり、立場の上の者が立場の下の方に向かって用いる発話形式）で問いかけても理解可能であり、適切に応答することも出来る会話力を有していると判断されます。

また、普通体でなされた指示（「ちょっとあれとって！」・「そのハンマー、持ってきて！」など）にもなんとか応じる事が出来ます。ただし、発話の流暢さには欠けるため、応答に時間がかかり過ぎたり、発話が途切れ途切れになったりする事があります。

TIFLA が目指している必要最低限の実践的な会話力がこのレベルとなります。

E 基準：ごく基本的な内容の質問（自分の年齢・家族構成・受入れ企業名など）にしか答えることが出来ず発話にもたどたどしさが残る。

【解説】

このレベルの実習生は D レベルの実習生のように、自然なスピードで話された質問や指示に応じる事が出来ません。「です」・「ます」体でゆっくり話されれば何とか聴き取る事が可能ですが、答えられる質問の範囲も非常に限られています（自分の名前や家族構成、受入れ企業名などのいわゆる自己紹介で話す範囲内）。

また、身振り手振りを交えて、ゆっくり出された指示にしか応じる事が出来ないため、相手に、「ほとんど日本語が通じない！」というある種のストレスを与えてしまいます。本校で学ぶ技能実習生は多くの場合、初日会話テストでこのレベルと判断されます。ただし、この場合 2 通りのケースがあり、ある程度の基礎力が既に備わっているものの、いわゆる「生きた日本語」を聞くことに慣れていないことが原因の実習生の場合は、本校の「実践的な日本語指導」を通して短時間でもランクアップを図る事が可能です。一方、母国での日本語学習がほとんど定着しておらず、明らかな基礎力不足が原因で E 判定を受けた場合、本校での短期間の日本語講習で D レベルに達するには多大な努力が必要となります。